# ライフあけぼの

令和4年1月号



発行所 一般財団法人榛名荘 介護老人保健施設 あけぼの苑 No,76

# 新年のごあいさつ

新年おめでとうございます。

旧年中は、御利用者様、その御家族様をはじめ、地域の皆様には、ご支援とご厚情を賜り、誠にありがとうございます。 本年も、よろしくお願いいたします。

現在は介護保険が施行されてから20年が経過し、制度の整備も進んだ半面、問題点も見えてきた分岐点に差し掛かっていると思われます。一方、感染者数は減少したといえ、まだ先の見えないコロナ禍の中にあっては、事業の継続すら困難な状況にあるといえます。しかし、恐れているばかりではなく、未来に向かって一歩を踏み出す必要があると思います。あけぼの苑では、今後居宅サービスに一層力を注ぎ、活動を拡大して行く所存でございます。スタッフ一同、ご利用者様の支援はもとより、人の集まる地域づくりに微力ながらも、貢献できればと願っております。

本年もよろしく、ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



施設長 南雲俊之

# 新入職員紹介



- ① 松澤 英萌
- ② 事務長
- ③ ギターを練習中
- ④ 20年前、はじめて就職したのが、あけぼの苑でした。その後、法人内の介護事業所を渡り歩き、あけぼの苑に帰ってきました。職員の皆さんと楽しく仕事をして地域の方々のお役に立てるようがんばりたいです。



- ① 森川 明子
- ② 介護福祉士
- ③ 散歩
- ④ 年を重ねて、いろいろ体験してきたことが、介護の世界でも活かせるように仕事をしていきたいと思います。



- ① 伊藤 早紀
- ② 管理栄養士
- ③ 写真
- ④ 皆様の心に寄り添った健康のサポートを したいと思っております。
- よろしくお願い致します。

- 1 名前
- 2 職種
- 3 趣味•特技
- ④ 意気込みを一言

# 職員インタビュー

あけぼの苑の職員を知っていただこうと言うこの企画。 第 1 回は、認知症専門棟(西棟)でケアマネジャーとして勤 務する白石晃一さんです。松澤事務長とは、20 年来の仲。 二人の介護観についての対談をお送りします。

(M:松澤 S:白石)

M:まずは、白石さんの経歴について教えてもらっていいですか?あけぼの苑に入職したのはいつでしたか?

S:平成16年だったと思います。

M:その時は介護職としてですよね。私が平成 14 年入職なので、2年後輩だったんですよね。その時から認知症専門棟で、認知症介護一筋でやってきた感じですね。

S:実は、あけぼの苑の前にはグループホームで働いていて。 だから本当に最初から今まで認知症介護一筋です。

M:そうか、そんな若い頃から働いてたんですね。その後ケアマネの資格を取って、現在の形になったんですか?

S:ケアマネの資格を取った当時は先輩のケアマネがいて、そ の方についてご家族の面接などに同席させてもらって勉強し ていました。

M:そして、現在は施設ケアマネと介護職を兼務しているという事ですね。

では、ここで、白石さんの仕事上のこだわりや、大切にしている考えなどを聞かせてもらいたいのですが。

S:こだわりですか。そうですね、私は一貫して「その人の事を知る」という事を大切にしています。どんな利用者様とも初めての時は信頼関係がゼロから始まりますけど、どうやって信頼関係を作っていくのかと考えるとその人を知る事から信頼してもらえるようにと思っています。その為に利用者様のお話を聞いて、本来なら聞かなくても良いと思えるような事も知って、そして利用者様とお話をする際に、例えば、ご家族の話題や住んでいる地名の話題などを織り交ぜるようにしています。そうすると、「うちの子供を知っているのかい?」と言うように話がはずむようになります。そのおかげで、利用者様から激しく拒絶されたことがないんです。あとは、なかなか表情が変わらない方だったり、笑顔を見せないような方がいると、どうすれば笑顔を引き出せるかと思って燃えてくるんですよ。M:なるほど。反応が薄かったりすると諦めがちだけど、そこにチャレンジしていくのは大切ですよね。



M:それに、特に認知症があって見知らぬ施設に初めて来た方は不安になりますし、そこから認知症の症状が悪化する事もあるかも知れないので、そうやって安心感を持ってもらうのは重要なことですよね。

S:そうですね。私のように施設に来て最初に顔を合わせた 職員が、話しをして、少しでも不安を和らげてもらいたいと 思っています。あとは、利用者様は一人一人違う人生を送 られてきていて、だから声かけだって全員同じで良い訳が ないと思います。その為にはその人を知って、その人に合 わせた声かけをするようにしています。

M:なるほど。では次にケアマネとし気を付けている事と か、苦労話とか、ありますか。

S:ケアマネとしては、書類を作っただけでなく、他のスタッ

フと一緒に実践していきたいと思っていますがスタッフも 色々な職種がいたり、経験年数も違ったりして、意見がぶ つかる事もあります。でも、それぞれの意見を尊重してまと めるようにしています。職種それぞれ勉強してきた事も違 い、だから視点もそれぞれ違いますので、意見が食い違う のも仕方ないと思って、うまくまとめるようにしています。 M:私も同じ考えで、良く言うんですけど、それぞれの意見 の違いは優先順位の違いであって、その人の為になる事 をしようという気持ちは同じだと思うんですよね。優先順 位の違いだと思うと意見が違っても、それを調整する糸口 が見えてくるんですよね。それと、調整役をやる人は白石 さんのような考え方ができる人が適任だと思いますね。あ まり我が強くないというか、「俺が、俺が」ってタイプだとな かなか調整は難しいと思うので、そう言う多職種の意見を フラットに見られるのは、重要な要素ですよね。

S:ありがとうございます。でも、時々は怒っちゃっう事もあって、先日も師長にたしなめられましたけど。

M:白石さんもそういう事があるんですね。でも時々はいいでしょう。たまには怒るとこをも見せとかないと。

M:では、白石さんの考える今後の展望はありますか。 S:展望ですか。あけぼの苑は榛名、倉渕地域で唯一の老健 ですから、地域に根付いて、我々にしかできない事にチャレン ジしていきたいですね。その為にも自分も含めスタッフ全体 の技量を高めて地域の人々から頼られる施設にしていきた いです。

M:なるほど、認知症専門棟としては、認知症周辺症状を緩 和するケアを実践していくとか、取り組ん行きたいですね。 S:そういう意味でも冒頭にお話しした「その人を知る」と言う 事をスタッフ全体で深めていきたいと思って、取り組んでい るんです。その人を知る事で、認知症があって、うまく思いを 伝えられない方でも、「何を望んでいるのか」「どんな気持ち でいるのか」を知る事ができるようになると思うんです。

M:なるほど、私は対人援助において重要な能力に「想像力」 があると思っていて、つまり、その人が「どう感じているのだろ う」という事を感じ取る力とで言う事ですけれど、では、その 想像力をどうやって高めるのか、と言うと正に地道に「その人 を知る」事なんだと思うんです。

S:ある研修で講師の方がおっしゃっていて印象的だったの が、「認知症を病気と捉えず、個性と捉える」と言う言葉だっ たんですが、病気だと捉えると認知症と一括りにしてしまいま すが、個性であれば、みんな個別なんです。

M:その人の今までの経験とか性格とか、考え方とか、その個 性の延長線上に認知症の症状もあるわけですからね。その 人を深く知る事は基本だけどとても大切な事ですね。

とても良い話が聞けたな、と思ってるんですけど他に普段か ら考えている事とか、大事にしている事とかはありますか。 S:あとは、私はもともとこの土地の人間ではないので、土地 を知る事から始めてきましたね。私の出身は青森なので。

M:そうか、青森出身なんですね。

S:地本の話ができるって重要なんですよね。そこから話が膨 らんで信頼も得られると思います。

M:確かに土地に根付いた仲間意識ってありますもんね。





S:そうですね。このあたりの地名とか、方言とかいろいろ 知るようにしていました。利用者様と会話していて、例えば 「三ノ倉って知ってるかい。」と言われて「知りません」じゃ、 話がそこで終わっちゃうじゃないですか。知っていれば、そ こから話も膨らみますから。

M:白石さんのお話を聞いていると、会話の中で相手をガ ッカリさせない事を大事にしているんだなと思いました。そ れは、利用者様だからとか、認知症があるからと言う事以 前に、人と人として失礼のないようにしているんだなと感じ ました。

白石さんの話を聞いていて、介護って科学的な根拠という のももちろん大事なんですけど、その上で一種の曖昧さと いうか、カッチリと決められない部分が大事なんじゃない かって考えていたのを思い出したんですけれど。

S:それが介護の専門性ですよね。だって「食べましょう。」 の一言で済めば良いですけれど、それでは済まないじゃな いですか。

M:そうか、確かに、食事介助とか栄養摂取という意味で は、「食べた」「食べない」の2つしかないけど、そこに向かう までのプロセスはその人ごとに違う。どんな声かけをすれ ば気持ちよく食べる方に気持ちが向いていただけるのか。 それにはその人を知らなければならないですよね。

白石さんの大切にしている「その人を知る」は介護の本質 に繋がっているだと感じました。

普段なかなか聞けない話ができて良かったです。ありがと うございました。

S:私もこういう話はする機会がなかったので良かったで す。ありがとうございました。



# 西楝行事紹介











### 8月 夏祭り

輪投げ、的あてミニゲーム、綿菓子と楽しんで頂き、最後に盆踊りをして夏を感じて頂きました









### 10月 運動会

リビングに国旗を飾り、運動会にちなんだ曲を 流し利用者様、職員で運動会を楽しみました









### フ月 アイスクリームハ・イキング

皆様におやつとしてバイラアイスを召し上がって頂きました。バイキング方式でアイスにかけるイチゴソース、チョコレートソースを選んで頂きました









### 9月 敬老会

慶祝状授与式を行いました。 授与者の幼少の頃 の話を職員が行い、 当時を懐かしんで頂きました









### 11月 外気浴

中庭に出て秋を感じて頂きながら外気浴、お茶会を開催しました

# 通所以出消行事紹介









8 月は夏祭りを行いました。スイカ割りや金魚すくい、盆踊り を楽しまれました。盆踊りは、「榛名音頭」「倉渕音頭」をみ んなで踊りを思い出しながら楽しく踊る事が出来ました。









7月は七夕行事として、七夕しりとり・歌クイズ・魚釣りゲームを行 いました。コロナウイルスの影響で外に出ることも制限される中、 室内でできるだけ開放感を味わえるように工夫しながら行事を 行いました。







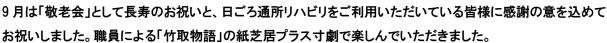












て計画しています。お楽しみに -2月は、クリスマス・忘年会と-





11 月は毎年「食」をテーマに行事をして います。ピクニックを予定していましたが 今回は室内でゲームを楽しみました。

だきました ・世界旅行を体験していた 0月は回想法を用いて、









### あけぼの苑東棟 行事紹介

### 7月 七夕行事

若竹を用意し、飾りつけを行いました。良い 歯の表彰も行い、表彰状と一緒にご利用者 様皆様の願いを込めた短冊の前で記念撮 影を行いました。





### 9月 敬老会行事

ご利用者様のご長寿をお祝いする敬老会を行いました。表彰状の授与、記念品、手作りのメダルを南雲施設長より受け取られました。おめでとうございます。





### 11月 ドライブ・行事

安中榛名駅へドライブへ出かけました。とて も天気に恵まれ、陽射しが暖かくドライブ日 和でした。久しぶりの外出行事でした。





### 8月 納涼祭行事

東棟ホールに祭りの飾りつけを行い、綿菓子機を使って綿菓子の提供と魚釣り、スイカ割りゲーム、職員による盆踊り、神輿(ご利用者様に製作からお手伝いいただきました)を担いで楽しみました。





### 10月 運動会行事

紅白のチームに分かれ、運動会を行いました。 玉入れ、ボウリング、玉運びなど様々な競技を 行い白熱した戦いが繰りひろげられました。





### 12月 クリスマス会行事

あけぼの苑にもサンタさんがトナカイに乗ってご利用者様に素敵なプレゼントを届けてくれました。





華やかなクリスマスの雰囲気を・・・ ~クリスマス・イルミネーション~





担当しました。



馬場敬史

例年イルミネーションを行っていたのですが、コロナ感染の影響もあり、昨年は行え ず、久々のイルミネーションとなりました。毎年心がけている事ですが、利用者様に楽 しんで頂けるように飾りつけました。同時にコロナ禍で利用者様とご家族の方々、近隣 の方々に心和むひと時が送ることができたら、との思いで作りました。令和 4 年もまた 飾りつけますので、近所の方や友人、親戚等をお誘いのうえ、ぜひ見に来てください。

地域の皆様とのつながりを・・・ ~地域サロンへ出前講話~





老健は地域に開かれた施設であり、地域の皆様との関わりを強めてい きたいと考え、今回、「さかみち・よりみち」様にお邪魔してお話をさせて いただきました。今回は誤嚥性肺炎予防について、予防の体操などを 紹介させていただきました。

電話 027(384)8612

T37013347

群馬県高崎市 中室田町225811

介護老人保健施設 あけぼの苑 般財団法人 榛名荘 う意見をお寄せ下さい。

気づいた点等ありました 何でも結構です。お気軽に

関紙「ライフあけぼの」です。 家族とあけぼの苑を結ぶ機